

第3章 地域資料の利用・提供

以下、地域資料の利用・提供、地域資料サービスと児童サービス、地域資料の利用・提供に関する課題について述べる。

1 地域資料の利用・提供

ここでは、地域資料サービスの利用状況として、貸出及びレファレンスの状況を調査した。続いて、広報方法、2015年度（平成27年度）に実施した事業、外部機関からの利用の協力依頼状況等をまとめる。

(1) 貸出方針

地域資料はほかの資料に比べて一般に流通していないものが多いため、亡失・汚破損のリスクを避けるためなどの理由により、貸出をしない図書館がある。実際にどの程度貸出がされているかを明らかにするため、個人利用者に対しての地域資料の貸出方針について尋ねた（図3.1）。

都道府県立図書館では、「一部貸出可」が21館（44.7%）で、最も多かった。「全て貸出禁止」と合わせると、6割以上の都道府県立図書館がほとんど貸出をしていない。市区町村立図書館では、「一部貸出禁止」が最も多く、694館（55.4%）であり、半数を超える市区町村立図書館が条件付きで貸出をしている。

備考の記述によると、館種を問わず、複本があれば貸出しているという図書館が多く見られた。

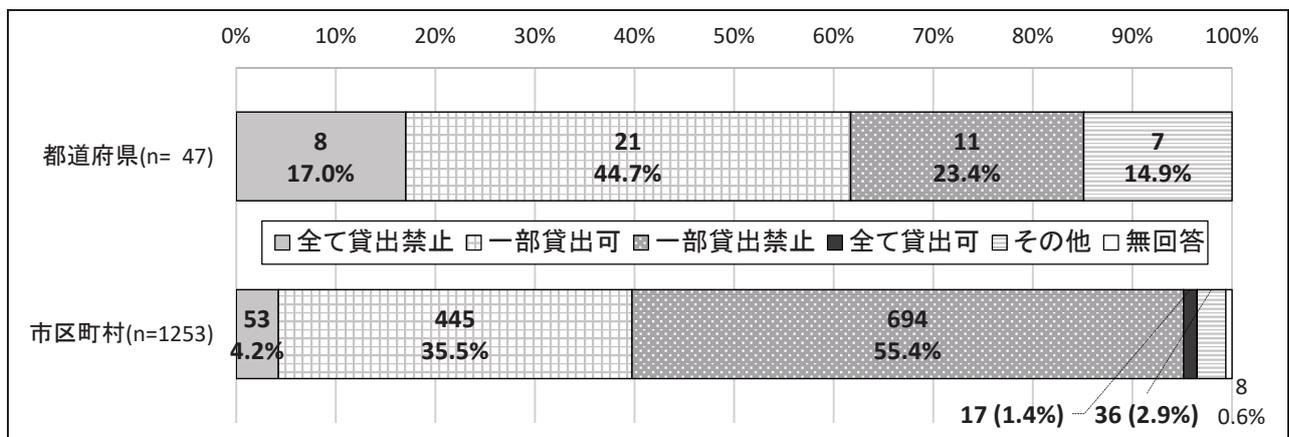


図3.1 地域資料の貸出方針

(2) 貸出条件

(1) の設問で「一部貸出可」「一部貸出禁止」「全て貸出可」のいずれかを選択した図書館について尋ねた（図3.2）。

都道府県立図書館では、「その他」を除く全館（30館 93.8%）が「一般資料と同じ条件で貸出する」としている。市区町村立図書館でも、「一般資料と同じ条件で貸出する」が最も多く、1,062館（91.9%）あるが、「一般資料より期間を短くして貸出する」「一般資料より冊数を少なくして貸出する」「一般資料より期間・冊数ともに制限して貸出する」とする図書館も少数ながら見られる。

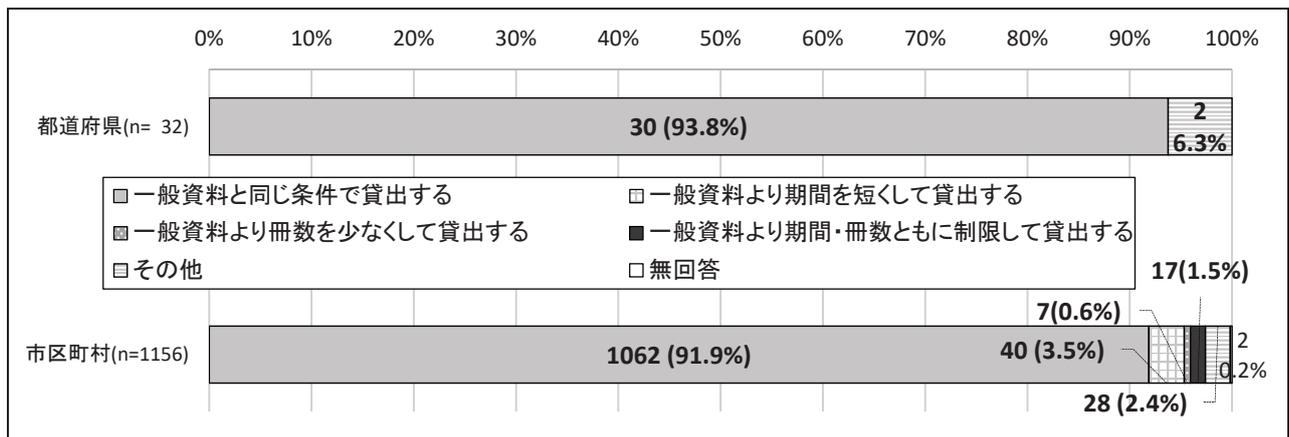


図 3.2 貸出条件

(3) 利用状況

サービスの利用状況として、貸出及びレファレンス状況について、それぞれ地域資料のみの統計を取っているか、また取っている場合は2015年度（平成27年度）の実数を尋ねた。

都道府県立図書館では、貸出冊数においては半数が、レファレンス件数においては7割が地域資料のみの統計を取っていた（図3.3）。市区町村立図書館では、貸出冊数は3割、レファレンス件数はわずか7.4%の図書館でしか、地域資料のみの統計を取っていなかった（図3.4）。

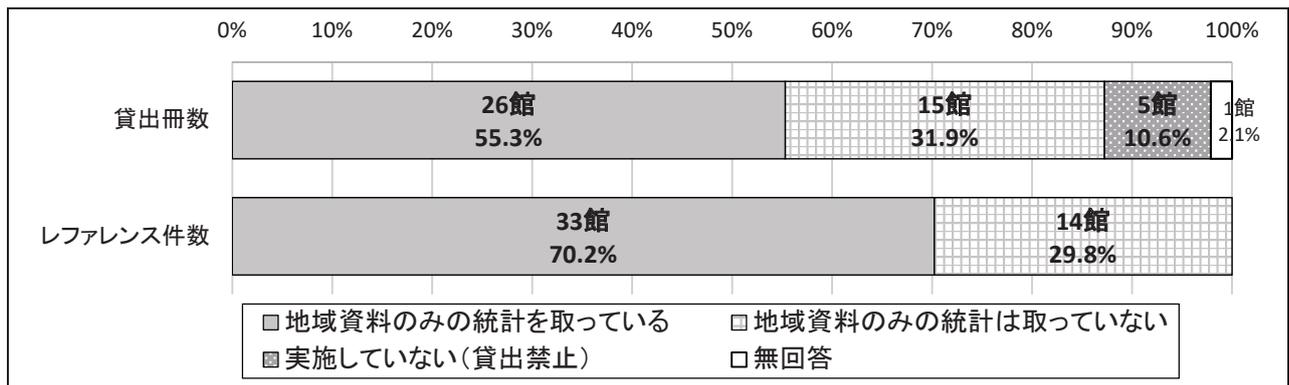


図 3.3 地域資料に関する各サービスの利用状況把握（都道府県）n=47

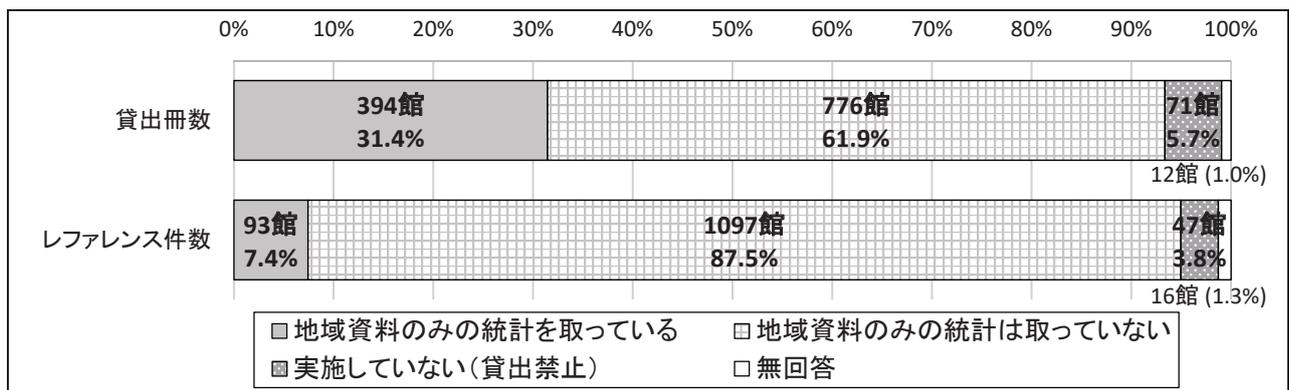


図 3.4 地域資料に関する各サービスの利用状況把握（市区町村）n=1253

次に、地域資料の貸出冊数について尋ねた（表3.1）。

「地域資料のみの統計を取っている」と回答した都道府県立図書館26館のうち、1,000～9,999冊の館が16館（61.5%）であった。なお、館全体の貸出冊数は100,000～999,999冊が37館（88.1%）と大半を占める。市区町村立図書館については、地域資料のみの統計を取っている394館のうち、

100～999 冊が約半数を占めた。館全体の貸出冊数は 100,000～999,999 冊が最も多い。

表 3.1 貸出冊数

冊数	都道府県立図書館				市区町村立図書館			
	館全体 (n=47)		地域資料のみ (n=26)		館全体 (n=1253)		地域資料のみ (n=394)	
～99	0	0.0%	2館	7.7%	4館	0.4%	35館	9.5%
100～999	0	0.0%	1館	3.8%	2館	0.2%	189館	51.2%
1,000～9,999	0	0.0%	16館	61.5%	18館	1.6%	133館	36.0%
10,000～99,999	4館	9.5%	7館	26.9%	357館	31.8%	11館	3.0%
100,000～999,999	37館	88.1%	0	0.0%	660館	58.8%	1館	0.3%
1,000,000～	1館	2.4%	0	0.0%	82館	7.3%	0	0.0%
回答数計	42館	100.0%	26館	100.0%	1123館	100.0%	369館	100.0%

さらに、地域資料のレファレンス件数について尋ねた（表 3.2）。

都道府県立図書館においては、地域資料のみの統計を取っている 33 館のうち、26 館（78.8%）が 1,000～9,999 件の間で回答している。なお、館全体のレファレンス件数は 10,000～99,999 件が最も多い。市区町村立図書館では「地域資料のみの統計を取っている」と回答したのはわずか 93 館ではあるが、このうち 41 館（48.2%）が 100 件未満、32 館（37.6%）が 100～999 件の間で回答している。館全体では 1,000～9,999 件、次いで 100～999 件が多い。

表 3.2 レファレンス件数

件数	都道府県立図書館				市区町村立図書館			
	館全体 (n=47)		地域資料のみ (n=33)		館全体 (n=1253)		地域資料のみ (n=93)	
～99	0	0.0%	0	0.0%	173館	18.8%	41館	48.2%
100～999	0	0.0%	6館	18.2%	288館	31.2%	32館	37.6%
1,000～9,999	9館	19.6%	26館	78.8%	371館	40.2%	12館	14.1%
10,000～99,999	37館	80.4%	1館	3.0%	85館	9.2%	0	0.0%
100,000～999,999	0	0.0%	0	0.0%	5館	0.5%	0	0.0%
1,000,000～	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
回答数計	46館	100.0%	33館	100.0%	922館	100.0%	85館	100.0%

(4) 広報

まず、地域資料について、どのような広報を実施しているかについて尋ねた。

都道府県立図書館では、「図書館全体のパンフレットの一部分に記載がある」が 34 館（72.3%）で、最も多かった。次いで「図書館ウェブサイトの中に地域資料単独のページがある」が 33 館（70.2%）、「地域資料のパスファインダーを作成している」が 28 館（59.6%）、「図書館ウェブサイトの一部に情報を掲載している」が 23 館（48.9%）と多かった（図 3.5）。

市区町村立図書館では、「特にしていない」が約半数の 648 館（51.7%）を占めたが（図 3.6）、「図書館ウェブサイトの一部に情報を掲載している」「図書館全体のパンフレットの一部分に記載がある」「図書館ウェブサイトの中に地域資料単独のページがある」「自治体の広報誌等に掲載している」と回答した館もそれぞれ 1 割以上あった。

「その他」として、都道府県立図書館では「地方紙への掲載（情報提供）」が数館挙げられていた。市区町村立図書館で比較的多いのは、「新着資料の紹介」「所蔵している地域資料リスト（目録）の作成・配布」「館内での掲示等による広報」などであった。具体的には以下のようなものである。

（市区町村立図書館の例）

- ・新着の地域資料（郷土図書）のPOPを作成し掲示
- ・図書館HPに新着の郷土資料紹介コーナー掲載
- ・毎年度、地域資料だけの目録（冊子）を作成し、館内への設置、HP掲載（映像資料含む）
- ・豆本リストの作成
- ・電子図書館の特集で郷土資料を案内・紹介
- ・ツイッターで地域に関する情報（歴史的な話など）を折々に発信
- ・役所イントラネットにおいて資料収集協力依頼告知文書を掲載
- ・昔の写真の応募受付
- ・教育委員会広報誌に図書館だよりを掲載
- ・ポスター掲示や館内への案内掲示

他に注目されるものとして、「SNS や地域のケーブルテレビでの情報発信」「館独自の地域資料の編集・発行」などもあった。

なお、広報の方法として地域資料や郷土作家などのコーナーの設置を挙げた図書館も多くあった。また、展示を行うとする図書館も多くあったが、この実施状況については（5）にて後述する。

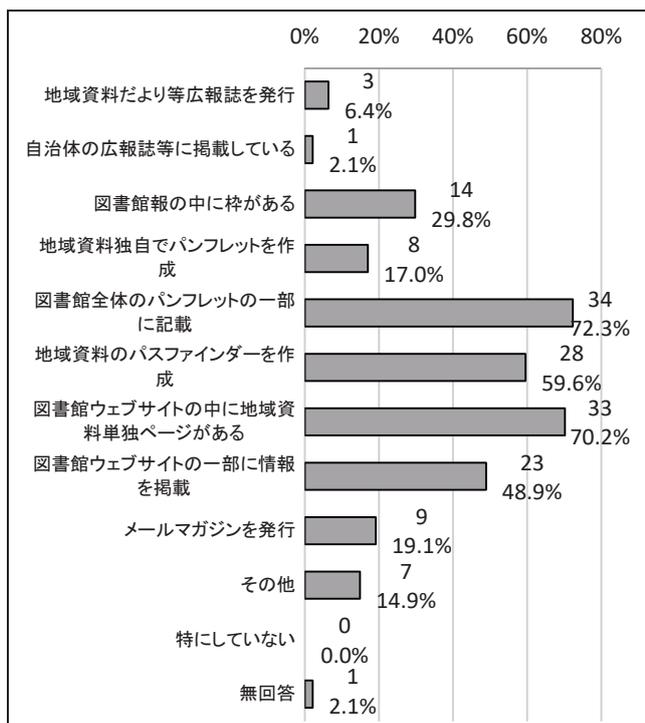


図 3.5 地域資料の広報手段（都道府県）
調査対象数 47（複数回答可）

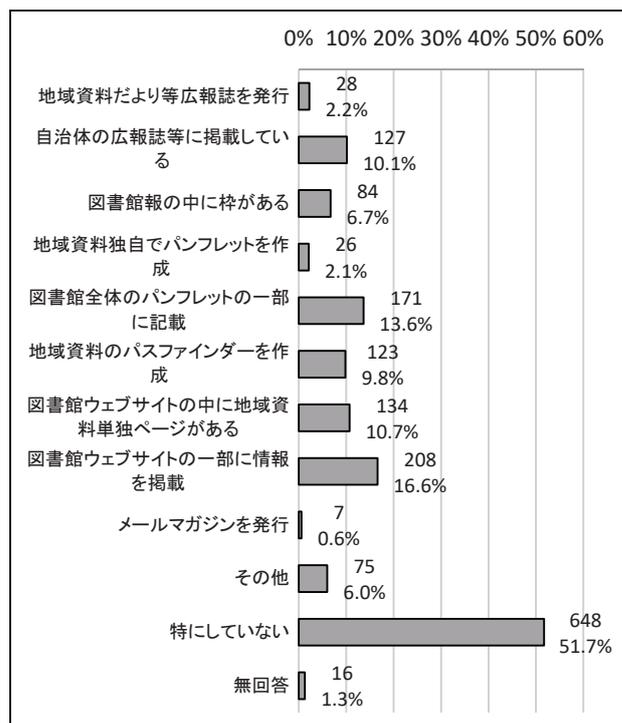


図 3.6 地域資料の広報手段（市区町村）
調査対象数 1253（複数回答可）

次に、地域資料の広報手法として「図書館ウェブサイトの中に地域資料単独のページがある」「図書館ウェブサイトの一部に情報を掲載している」を選択した図書館に、自館のウェブサイトにおいてどのような情報を提供しているかについて尋ねた。

都道府県立図書館では、「調べ案内（テーマ別資料紹介、パスファインダー等）」が 33 館（73.3%）で、最も多かった（図 3.7）。次いで「新着資料案内」が 31 館（68.9%）、「レファレンス事例（データベース、事例集等）」が 30 館（66.7%）、「画像データベース（検索機能付）」が 27 館（60.0%）と多かった。市区町村立図書館では、「新着資料案内」が 102 館（33.0%）で、最も多かった（図 3.8）。

「調べ方案内（テーマ別資料紹介、パスファインダー等）」「地域ゆかりの人物関連情報」「レファレンス事例（データベース、事例集等）」と回答した館もそれぞれ2割以上あった。

「その他」として、都道府県立図書館では以下のような事例が挙げられていた。

（都道府県立図書館の例）

- ・ 関係機関のイベント情報のリツイート
- ・ 県公報の所蔵情報・新聞の所蔵情報・新聞のマイクロフィルムの所蔵情報・住宅地図の所蔵情報
- ・ 地域ゆかりの項目関連情報（県関係文献目録）
- ・ 県関係資料出版情報の発行
- ・ 県民に向けた、地域資料収集への協力依頼のリーフレット作成、掲載
- ・ 図書・雑誌に掲載された地域に関する事項について検索できる文献データベースの公開
- ・ コーナー紹介、地域資料の目次等のテキストデータ
- ・ 公報目次検索

「その他」で市区町村立図書館に比較的多いのは、「所蔵している地域資料の一覧（目録）」「地域資料だけを検索できるシステム」「地域資料コーナーの案内」「刊行物の紹介」「地域の情報」などであった。また、本問の選択肢に「自治体史の目次・索引」があるが、本文も掲載している館や自治体史以外の地域資料（目次・索引）を公開している館もあった。具体的には以下のようなものである。

（市区町村立図書館の例）

- ・ 古文書の目録を掲載 寄贈和漢書の検索案内 新聞所蔵保存期間一覧を掲載
- ・ デジタル化済み資料一覧、自館発行地域資料の電子版を掲載
- ・ 電子書籍化した地域資料を情報提供
- ・ 特定の主題についてのテーマ別検索が可能
- ・ 郷土資料室の案内・特殊コレクションについての説明
- ・ 市刊行物一覧を掲載
- ・ 郷土史刊行物の紹介
- ・ 地域資料のみの検索及び市発行の書籍紹介
- ・ 市内を巡って得た情報をまとめたガイドブック（電子書籍）の掲載
- ・ 地域に関するコラムを掲載
- ・ 地域の方言収集
- ・ 地場産業関係者へのインタビューを記事にして掲載
- ・ 地域資料だよりの Web 掲載、出版物の紹介、地域資料専門員の出勤予定表の掲載
- ・ 行政の他部局と共に発行した地域情報誌の PDF 版を掲載
- ・ 郷土資料の全文紹介（著作権の切れているもの）

他に注目されるものとして、「郷土資料の寄贈・情報提供のお願い」「収集範囲などの掲載」、「都道府県立図書館のデジタルアーカイブを利用した写真・地図・絵葉書等の公開」などもあった。

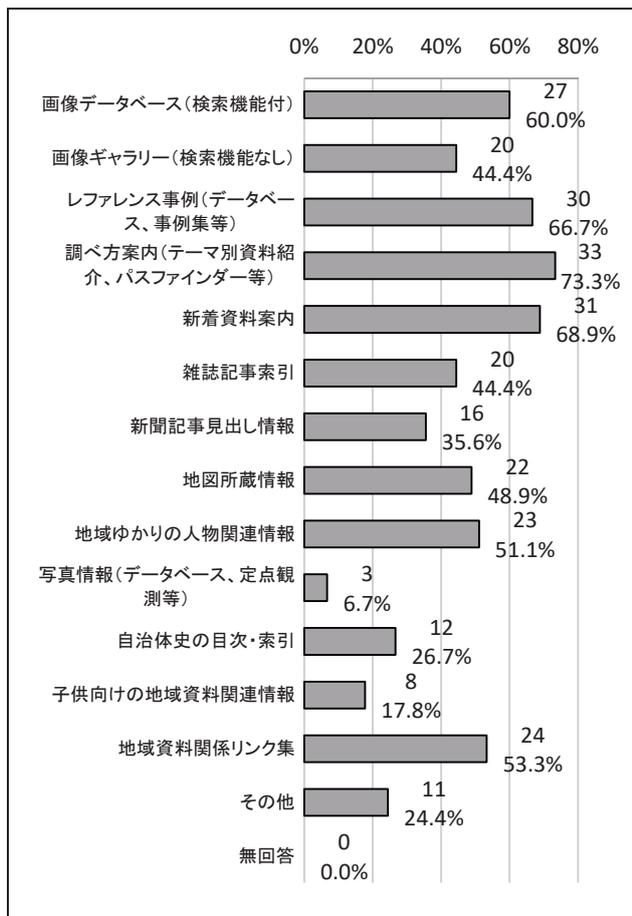


図 3.7 ウェブサイトによる広報（都道府県）
調査対象数 45（複数回答可）

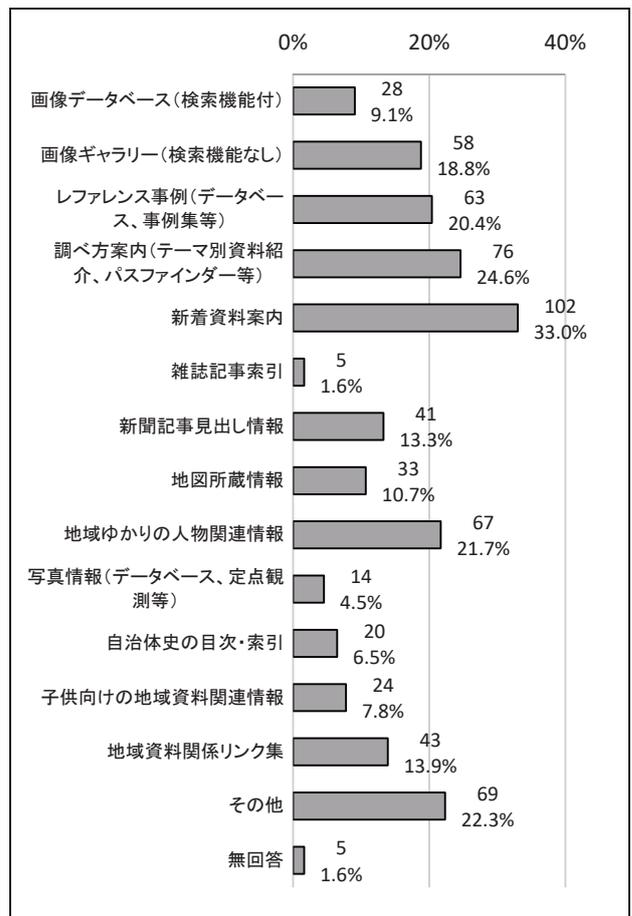


図 3.8 ウェブサイトによる広報（市区町村）
調査対象数 309（複数回答可）

(5) 地域資料サービス事業

2015 年度（平成 27 年度）に、地域資料サービスとしてどのような事業を実施したかについて尋ねた。

都道府県立図書館では、何も実施していない館はなく、何らかの地域資料サービス事業を実施していた。ほとんどの館で「所蔵資料の展示（新着紹介含む）」（46 館 97.9%）及び「地域をテーマにした展示」（42 館 89.4%）を実施していた（図 3.9）。また、半数以上の館で「地域関係作家の作品等の展示」「地域をテーマにした講演会」（各 27 館 57.4%）を実施していた。市区町村立図書館でも、「所蔵資料の展示（新着紹介含む）」（451 館 36.0%）及び「地域をテーマにした展示」（382 館 30.5%）が多かった（図 3.10）。ただし「特に実施していない」も 457 館（36.5%）あった。

「その他」として、都道府県立図書館では、「県主催展への PR パネル展示」「郷土をテーマにした紙芝居の製作及び実演のコンクールの開催」などがあつた。市区町村立図書館で比較的多いのは、「地域に関する講座」「まち歩き」「地域資料の読み聞かせやお話し会（地域の人に話をしてもらう）」「映像資料の上映会」などであつた。具体的には以下のようなものである。

（市区町村立図書館の例）

- ・一暦年中に収集した地域資料の展示会、収集した資料にちなんだ講座の開催
- ・地域関係作家のトークイベント
- ・高齢者対象及び子ども対象の読み聞かせ会の一部に地域資料を使用
- ・地域出身作家の読書会

- ・語り部の会によるおはなし会
- ・地元民話の会による方言での怪談を図書館で実施
- ・地域に関する歴史講座
- ・郷土の歴史を学ぶために徒歩・バス乗車で市内を巡る現地研修会を開催
- ・地域の古い街道を親子で歩く催し
- ・地域をテーマにした体験講座
- ・地域資料を持って市内の史跡巡り
- ・文学散歩（市内の、文学作品に関連のある場所を講師の解説で巡る）
- ・映像資料を使い、解説を交えた上映会
- ・16ミリフィルムのDVD化した上映会

他に注目されるものとして、「かるた大会」や「地域を題材にした演劇イベント」「郷土資料に詳しい職員の派遣（週に1日）」などもあった。

なお、地域資料のデジタル化を挙げた館も多くあったが、この実施状況については第4章にて詳しく述べる。

また、「郷土史料館特別展への資料の貸与」や、「地域の美術館・博物館の企画展と連動した展示」など他機関と連携した事業も多かったが、連携については第6章にて後述する。

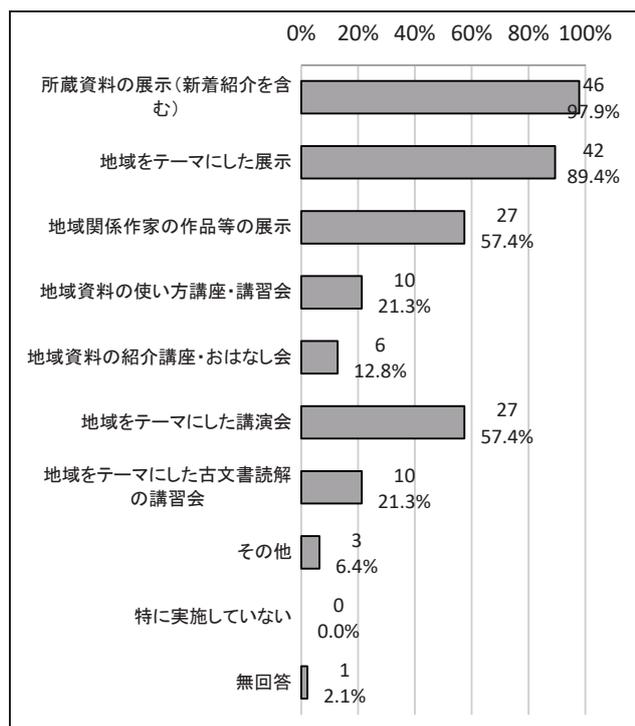


図 3.9 2015 年度に実施した事業（都道府県）
調査対象数 47（複数回答可）

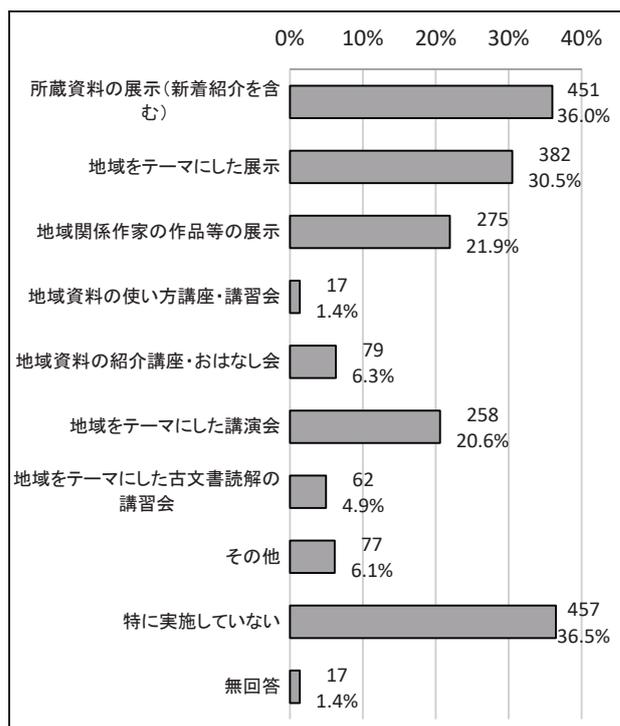


図 3.10 2015 年度に実施した事業（市区町村）
調査対象数 1253（複数回答可）

(6) 外部機関からの協力依頼

2015 年度（平成 27 年度）中に外部機関からあった地域資料利用の協力依頼の件数を尋ねた。

都道府県立図書館では、「展示用貸出」「出版物等への掲載」「テレビ・映画等での利用」で 8 割以上、「撮影申込み」でも 7 割以上の館に外部機関からの利用依頼がある（表 3.3）。市区町村立図書館では、いずれの利用も 1 割程度である（表 3.4）。なお、備考欄への記述から、統計を取っていない、または協力依頼はあっても地域資料単独の統計を取っていないため無回答という館があった。

「その他」として、都道府県立図書館では、「調査研究のための利用」「ウェブサイトへの掲載」などがあった。具体的には以下のようなものである。

（都道府県立図書館の例）

- ・電子化、調査研究
- ・文献・資料調査（展示会の企画、文化財指定のため等）
- ・研究発表資料としてパワーポイント等で利用
- ・ウェブサイトを使用
- ・海外の大学へのデジタルデータの寄贈

「その他」で市区町村立図書館に比較的多いのは、「自治体や個人・団体による調査研究」「自治体史編さん」「講演会や講座での使用」「印刷物への掲載」「他図書館や学校への協力貸出」などであった。

（市区町村立図書館の例）

- ・自治体内行政関係での調査など
- ・町行政及び教育委員会から、記念誌作製にかかる行政資料として
- ・建造物調査資料の提供・法務局協議の資料提供
- ・大学等の調査研究機関へのデータ提供、資料貸出
- ・大学院生の調査への協力、個人の調査研究（修士論文等）
- ・市史編さん調査、文化財調査
- ・市史編さん作業に伴う貸出、学校の授業資料としての貸出
- ・講演会等での利用
- ・看板への掲載、講座での使用、報告書への掲載、イベント内での上映
- ・花火大会への音源提供(地域の音頭)
- ・市民ミュージカル製作用の資料として貸出
- ・観光ガイドの案内資料作成のための写真貸出
- ・高等学校が町のPR映像を作成する際に編集材料として貸出
- ・市内の資料室等の機関、市外の図書館への特別貸出等
- ・古い雑誌の復刻版を作るための、雑誌のデジタル複写への協力
- ・レプリカ作成のための貸出依頼

表 3.3 外部機関からの協力依頼（都道府県）

件数	目的		展示用貸出		撮影の申込		出版物等への掲載		テレビ映画等利用		その他	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
5件未満	18館	46.2%	5館	14.7%	2館	4.9%	17館	41.5%	11館	64.7%		
5件～10件未満	12館	30.8%	11館	32.4%	11館	26.8%	11館	26.8%	2館	11.8%		
10件～15件未満	4館	10.3%	2館	5.9%	8館	19.5%	7館	17.1%	4館	23.5%		
15件～20件未満	1館	2.6%	1館	2.9%	2館	4.9%	1館	2.4%	0	0.0%		
20件～25件未満	2館	5.1%	2館	5.9%	3館	7.3%	0	0.0%	0	0.0%		
25件～30件未満	0	0.0%	1館	2.9%	3館	7.3%	3館	7.3%	0	0.0%		
30件～35件未満	1館	2.6%	2館	5.9%	1館	2.4%	1館	2.4%	0	0.0%		
35件～40件未満	0	0.0%	1館	2.9%	2館	4.9%	0	0.0%	0	0.0%		
40件～45件未満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1館	2.4%	0	0.0%		
45件～50件未満	1館	2.6%	1館	2.9%	2館	4.9%	0	0.0%	0	0.0%		
50件以上	0	0.0%	8館	23.5%	7館	17.1%	0	0.0%	0	0.0%		
合計	39館	100.0%	34館	100.0%	41館	100.0%	41館	100.0%	17館	100.0%		

表 3.4 外部機関からの協力依頼（市区町村）

目的 件数	展示用貸出		撮影の申込		出版物等への掲載		テレビ映画等利用		その他	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
5件未満	165館	81.3%	107館	68.6%	107館	71.8%	95館	76.6%	65館	70.7%
5件～10件未満	24館	11.8%	16館	10.3%	12館	8.1%	13館	10.5%	16館	17.4%
10件～15件未満	7館	3.4%	7館	4.5%	7館	4.7%	6館	4.8%	3館	3.3%
15件～20件未満	2館	1.0%	8館	5.1%	4館	2.7%	5館	4.0%	4館	4.3%
20件～25件未満	2館	1.0%	4館	2.6%	5館	3.4%	2館	1.6%	2館	2.2%
25件～30件未満	0	0.0%	4館	2.6%	5館	3.4%	0	0.0%	0	0.0%
30件～35件未満	0	0.0%	1館	0.6%	0	0.0%	2館	1.6%	1館	1.1%
35件～40件未満	0	0.0%	2館	1.3%	1館	0.7%	0	0.0%	0	0.0%
40件～45件未満	0	0.0%	2館	1.3%	1館	0.7%	0	0.0%	0	0.0%
45件～50件未満	1館	0.5%	0	0.0%	1館	0.7%	0	0.0%	0	0.0%
50件以上	2館	1.0%	5館	3.2%	6館	4.0%	1館	0.8%	1館	1.1%
合 計	203館	100.0%	156館	100.0%	149館	100.0%	124館	100.0%	92館	100.0%

2 地域資料サービスと児童サービス

ここでは、子供を対象とした地域資料サービス事業の実施状況についてまとめる。子供たちも学校教育等で地域について学ぶ機会があるため、大人だけでなく子供を地域資料サービスの対象とする図書館もある。子供たちが地域を知るために、図書館がどのような地域資料サービス（または児童サービス）を行っているかを明らかにした。

(1) 子供を対象とした地域資料サービス事業

地域資料において子供向けに実施しているサービス、又は児童サービスで実施している地域資料に関するサービスの内容を尋ねた（図 3.11、3.12）。

都道府県立図書館では、約6割を超える31館で「館内の児童コーナーに地域資料を排架」を実施していた（66.0%）。また、3割以上の館で「学校への地域資料の貸出」（19館40.4%）、「パスファインダーやブックリストの作成」（17館36.2%）、「館内の地域資料コーナーに子供向け資料を排架」（16館34.0%）を実施していた。市区町村立図書館では、「学校への地域資料の貸出」（420館33.5%）「館内の児童コーナーに地域資料を排架」（412館32.9%）が多かった。ただし「特になし」も453館（36.2%）あった。

「その他」として、都道府県立図書館では、「おはなし会」「学習セットの貸出」「地域のクイズ」などが挙げられた。市区町村立図書館で比較的多いのは、「地域資料の読み聞かせ」「展示」「学習支援」などであった。具体的には以下のようなものである。

（都道府県立図書館の例）

- ・ 県民の日のおはなし会開催による、郷土に関する本の読み聞かせや紹介
- ・ ウェブサイトの地域資料のページに、小中学生向けの「地域学習に役立つ図書リスト」を掲載
- ・ 郷土学習セットの貸出
- ・ 幼児・児童への郷土クイズ（毎週）

（市区町村立図書館の例）

- ・ 小学新1年生へのふるさとカルタの贈呈と地域の昔っこの読み聞かせ
- ・ 子ども対象の読み聞かせ会の一部に地域資料（紙芝居）を使用
- ・ 全町各小学校1・6年生を対象に出前「ふるさと紙芝居」の読み聞かせを実施
- ・ 地域資料を使ったおはなし会

- ・隔月で民話のおはなし会を開催
- ・郷土かるた（通常版と大型版）の貸出
- ・郷土児童文学作家の書架表示と作品リストの配架
- ・宮沢賢治の絵本展示、家読おすすめの本として方言の昔ばなし集の展示
- ・夏休み期間に、児童向けの地域資料特集を毎年実施
- ・1日体験司書事業において地域資料の学習を実施
- ・小学生の施設訪問（校外学習）で地域資料を紹介
- ・小中学生の職場体験の際に、地域資料に関わる仕事の体験実施
- ・郷土偉人を図書館資料で調べる学の場所の提供、図書提供
- ・図書館ウェブサイト上で文化財等の説明を児童向けにリライトして紹介
- ・学校副読本作成協力
- ・市教育委員会作成の小学生向け地域資料の作成に協力
- ・地元まつわる話を大型紙芝居化し、読み聞かせ
- ・市内の昔話・伝説をもとにふるさと双六を作成し貸出
- ・小学生凧作り講座
- ・町探検の施設見学受入
- ・図書館の資料を使って問題に答える「としょかんクイズ」に地域資料を使った問題を作成
- ・地域の歴史、特産物を知るところを目的としたバスツアーを夏休みイベントとして実施
- ・絵画・調べ学習コンクールの実施

他に注目されるものとして、町内の学校の「学校だより」を閲覧できるようにしているなどもあった。

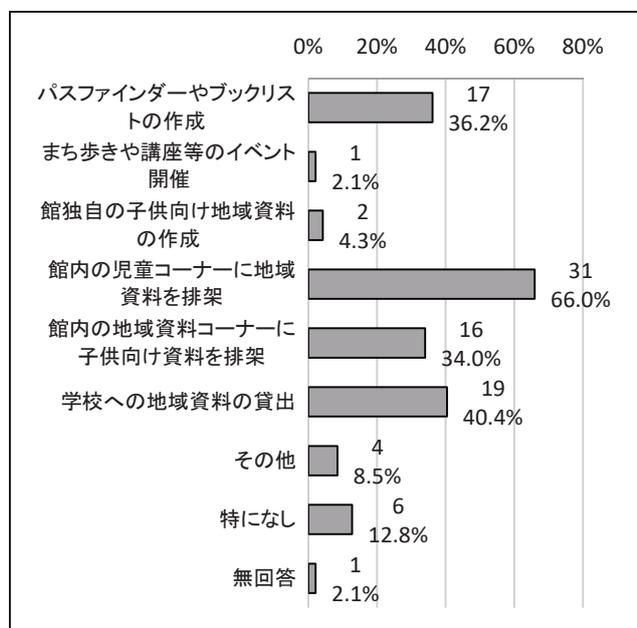


図 3.11 児童向け地域資料サービス（都道府県）
調査対象数 47（複数回答可）

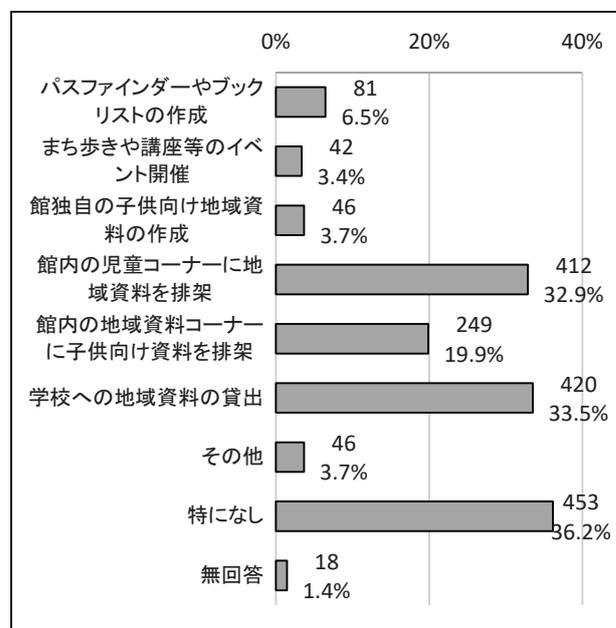


図 3.12 児童向け地域資料サービス（市区町村）
調査対象数 1253（複数回答可）

(2) 子供を対象とした地域資料サービス事業の担当者

児童向け地域資料サービスとして、「パスファインダーやブックリストの作成」「まち歩きや子供向け地域資料の作成」「館独自の子供向け地域資料の作成」「その他」を選択した館に、その事業の

担当者について尋ねた。

都道府県立図書館では、約4割の8館(42.1%)が「児童サービス担当」と回答した(図3.13)。市区町村立図書館では、「地域資料サービス担当」(21館25.0%)、「児童サービス担当」(19館22.6%)、「地域資料サービス担当と児童サービス担当とで同程度」(12館14.3%)、「図書館全体」(24館28.6%)の数にあまり差異はなかった(図3.14)。

「その他」の記述からは、市区町村立図書館では、1人しかいない正規職員、図書館長など、職員の少なさが察せられた。他に、ボランティアや博物館との共催事業として講座を行ったケースもあった。

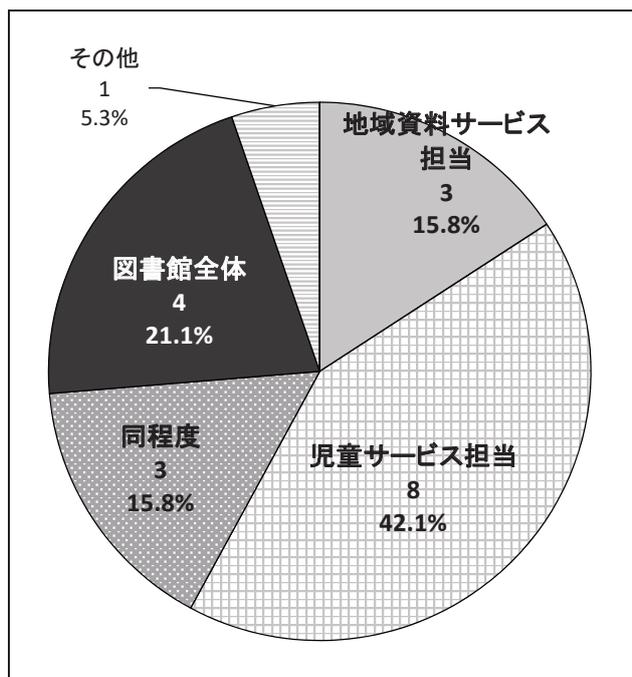


図 3.13 子供向け事業担当者(都道府県)
調査対象数 19

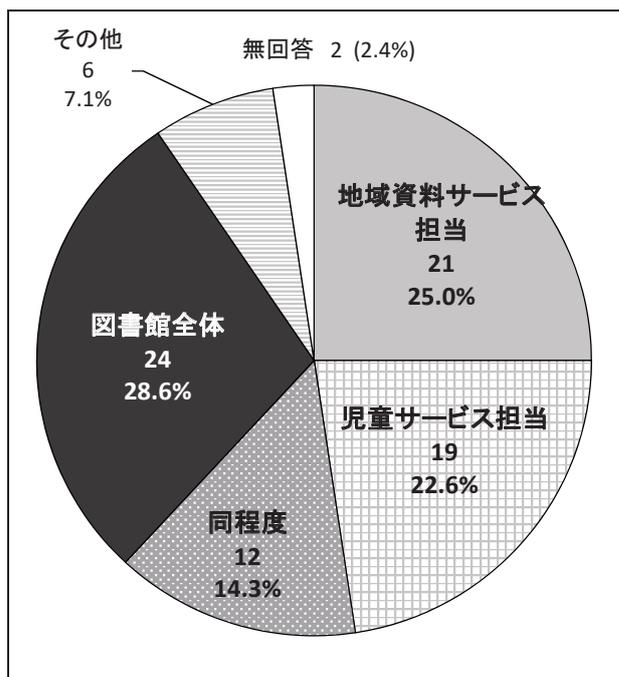


図 3.14 子供向け事業担当者(市区町村)
調査対象数 84

3 地域資料の利用・提供に関する課題

ここでは、地域資料の利用・提供に関して、現在解決すべき課題と各図書館が考える事項についてまとめた。

重要なものを3つまで選択してもらっている。

都道府県立図書館では、半数を超える館が、「職員が不足している」(30館63.8%)、「地域資料についてのPRが不十分である」(24館51.1%)という課題を抱えていた(図3.15)。市区町村立図書館では、「資料活用のノウハウが不足している」(591館47.2%)が最も多く、次いで「地域資料についてのPRが不十分である」(517館41.3%)、「職員が不足している」(489館39.0%)が多く挙げられた(図3.16)。

「その他」として、都道府県立図書館では、デジタル化に関する課題があったが、これについては次の第4章で詳しく述べる。市区町村立図書館では地域資料そのものの不足、特に児童向けの資料が少ないという館が多かった。また、活用についても課題を抱えている図書館も見受けられ、さらにはすべて課題であるという館もあった。

(市区町村立図書館の例)

- ・貸し出せる複本の収集が不十分

- ・ 出版されるものが少なく、収集が難しい
- ・ 児童向けの地域資料が不足している（出版されていない、発行されている資料自体が少ない）
- ・ 収集対象の資料について全館で共通認識が取れていない
- ・ 資料の劣化
- ・ 郷土及び郷土資料に関する知識と理解の向上が必要
- ・ 人材の確保（異動により担当が数年で変わってしまう）
- ・ 眠っている資料の掘り起こしと住民の協力
- ・ PRすべき地域出版物が少ない（災害に関するものが多く、まだPRすべき時期になっていない）
- ・ （利用者は、図書館での）行政資料利用について関心がない

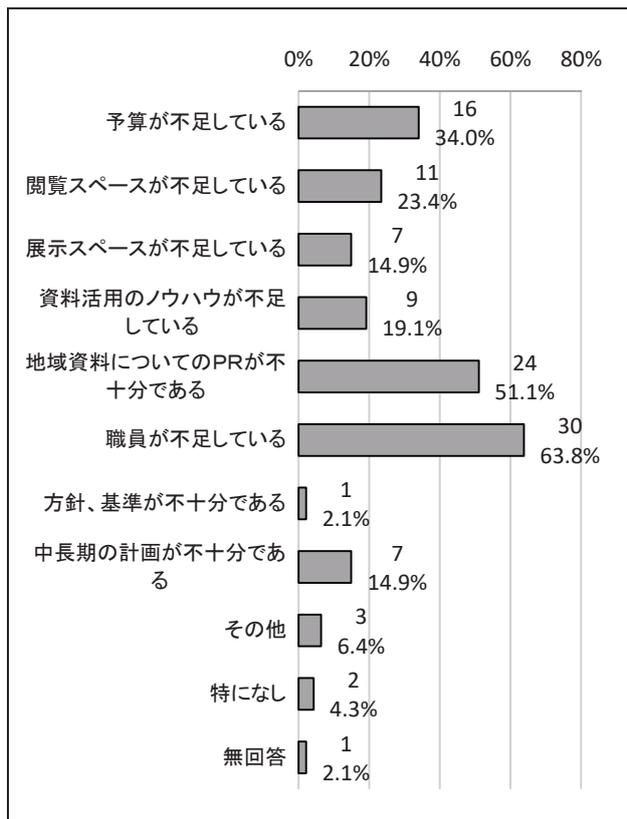


図 3.15 利用・提供の課題（都道府県）
調査対象数 47（複数回答可）

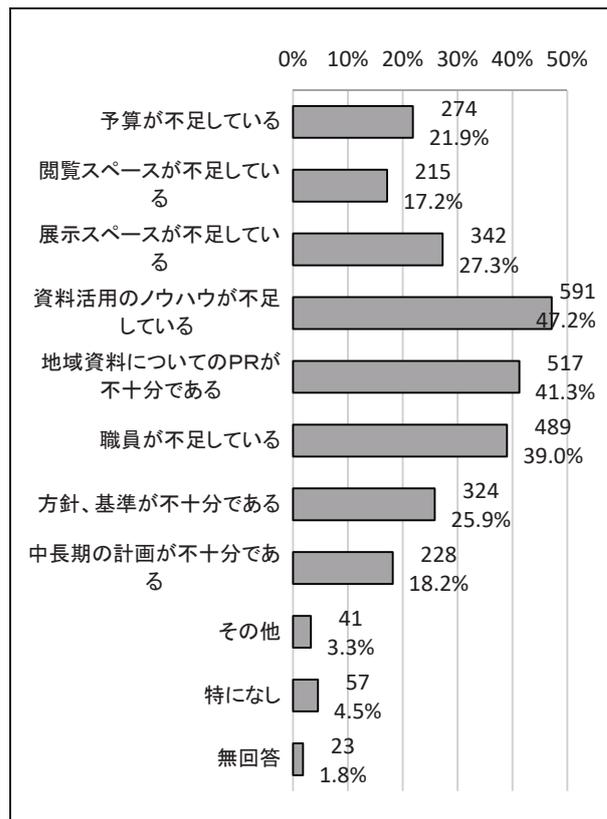


図 3.16 利用・提供の課題（市区町村）
調査対象数 1253（複数回答可）